

【中学校 英語】

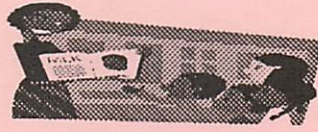
コミュニケーション能力の 基礎を培う指導の工夫

～「読むこと」の指導を通して～



浦添市立仲西中学校

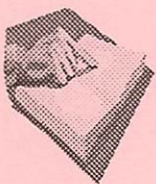
當銘日実子



目次



I	テーマ設定の理由	1
II	目指す生徒象	1
III	研究目標	1
IV	研究の仮説	1
1	基本仮説	1
2	作業仮説	1
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	「音読指導」の学習理論の研究	3
2	読解力を高めるための研究	4
3	授業における音読指導の展開や活動の工夫・改善	5
VII	授業実践	7
1	単元名	7
2	単元の目標	7
3	単元について	7
4	指導計画	9
5	本時の活動	10
VIII	研究の考察	12
1	作業仮説1の検証	12
2	作業仮説2の検証	14
3	作業仮説3の検証	16
IX	研究の成果と課題	18
1	成果	18
2	課題	18
	おわりに	19
	主な参考・引用文献	19



コミュニケーション能力の基礎を培う指導の工夫

～「読むこと」の指導を通して～

仲西中学校 當銘日実子

【要約】

英語の授業における音読指導を通して、内容理解を導き、読解力を育ませ、生徒に自信をもたせることで、コミュニケーション能力を高めさせることを試みたものである。

[キーワード] □音読指導 □読解 □ワークシート □自信

I テーマ設定の理由

平成15年に文部科学省は「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想を策定し、わが国の英語教育の指針を示した。学習指導要領においては、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」と目標を掲げている。中学校や高校での達成目標が設定され、中学校では卒業段階までに挨拶や応対、身近な暮らしに関わる話題などについて平易なコミュニケーションができることを求めている。

本市では平成16年に英語教育特区となり市内の全ての小学校に「英語科」が設置され、英語の学習が進められている。

小学校で4年間楽しく英語を学習してきた1年生が今年入学してきた。その生徒達は最初の授業から英語に対して抵抗なく、英語で挨拶をしたり、自己紹介をしたりと、9割が堂々と大きな声で発言することができた。

4月に実施した本市の小学校の英語教育に関する調査の結果、本校の1学年の生徒達が「英語の授業は楽しかった」(79.8%)と答えている。また、小学校で英語をやってよかった(88.8%)理由に「わかりやすい」「中学校で英語を学習するときに役立つ」等と答える生徒もいた。英語という外国語に対して自信をつけてきたことがうかがえる。あるALTによると日本の小学校における英語教育を「希望の持てるすばらしい英語教育だ」と賞賛している。

しかし、6月にこの1年生に実施した校内での英語の授業についてのアンケート調査の結果では、「英語はむずかしい」が73.1%であった。中学生になり「読む」「書く」ことも授業に入り、難しいと感じてきて、結果、興味・関心が薄らいでしまう生徒も見られる。同じ文字を読むにも、英語では異なった複数の発音になり、「読めない」という困

難から自信を喪失させているのではないだろうか。生徒達は英語を発話することは好きである。理解している言葉は、堂々と発話する。こうした態度はコミュニケーションの大切な基本であると考えられる。

英語を理解することは、相手とのコミュニケーションに自信が持て、学習にやる気が持てるのではないだろうか。

そこで、外国語の目標にある「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」をふまえて、「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の領域と大いに係わりがある「読むこと」の指導の工夫をすることによって、生徒達に英語を読む力を育てていきたい。そして、英語に自信を持たせ、積極的に学習に取り組ませたいという理由から本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

自信をもって積極的に英語を学習し、コミュニケーション能力を培う生徒

III 研究の目標

内容理解を含めた音読指導を工夫して英語学習に積極的に取り組ませ、実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。

IV 研究の仮説

1 基本仮説

生徒が英文の内容を理解し、音読を重ねることにより、興味・関心がわき、英語が分かることで自信を持ち、積極的に英語を学習し、コミュニケーション能力の基礎を培うことができるであろう。

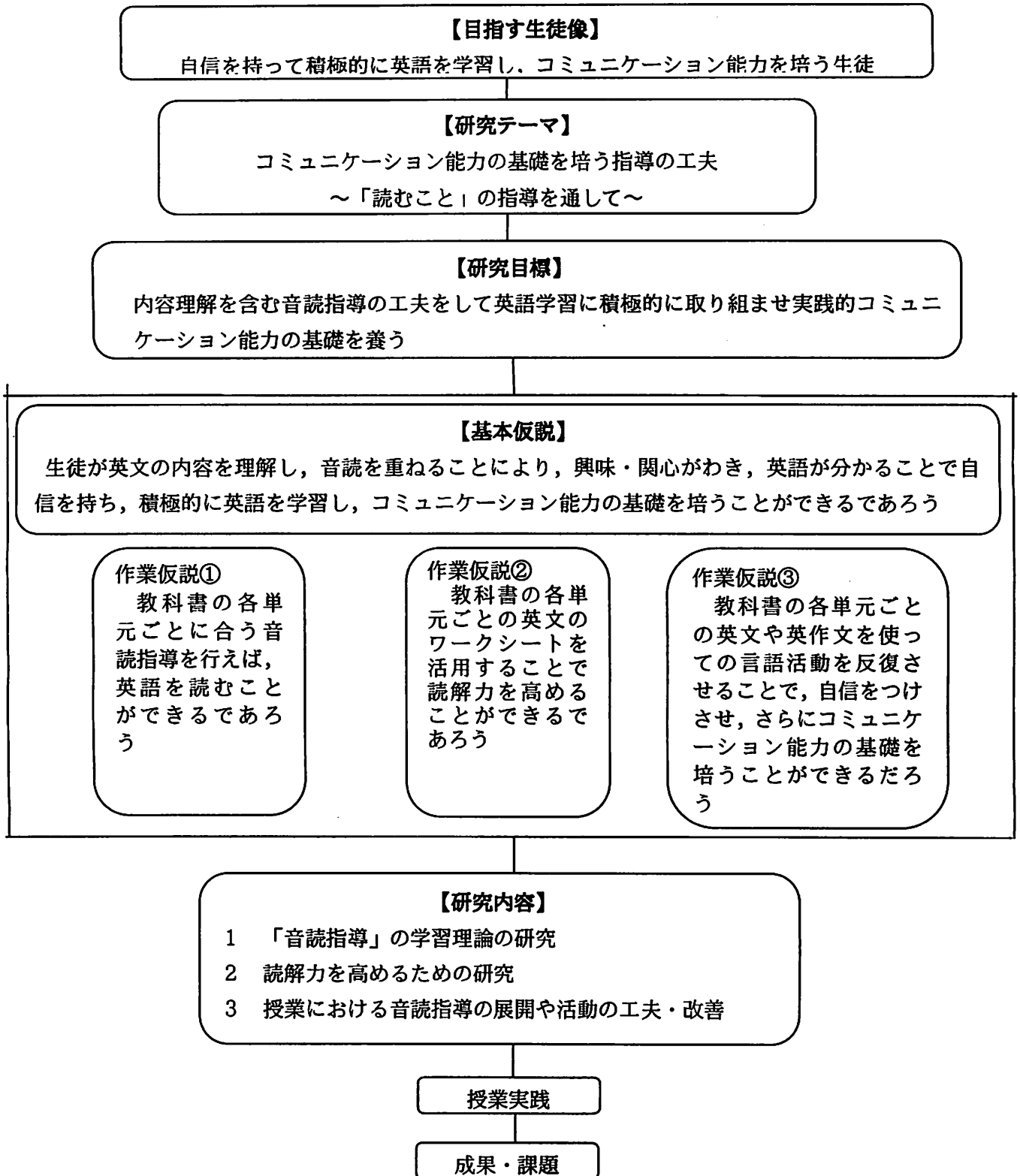
2 作業仮説

(1) 教科書の各單元ごとに合う音読指導を行えば、英語を読むことができるだろう。

- (2) 教科書の各單元ごとの英文のワークシートを活用することで、読解力を高めることができるであろう。
- (3) 教科書の各單元ごとの英文や英作文を用いた言語活動を反復させることで、自信をつ

けさせ、さらにコミュニケーション能力の基礎を培うことができるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 「音読指導」の学習理論の研究

(1) 音読と脳との関連

生徒が自信をもって英語を読めるようになるにはどのような手立てが必要かをこれから研究していくにあたり、まず音読について調べてみることにした。

英語は言語のひとつである。その言語を習得する方法として、古代ギリシャ・ローマ時代あるいはそれ以前から音読の有効性は注目されてきた。

脳を活性化させることは脳を鍛えることで、鍛えられた脳は学習能力をあげる。音読中の脳活動は左右の脳とも活性化している。これは体において、運動中の筋肉が働いていることと同じことで、音読は脳を鍛えあげる運動だと医学博士の川島隆太氏は著書「脳と音読」でいっている。

(2) 学習方略としての音読

音読は4技能のいずれに対しても効果のある学習方略である。図1（英語教育2003.11月号より引用）は、それを表している。

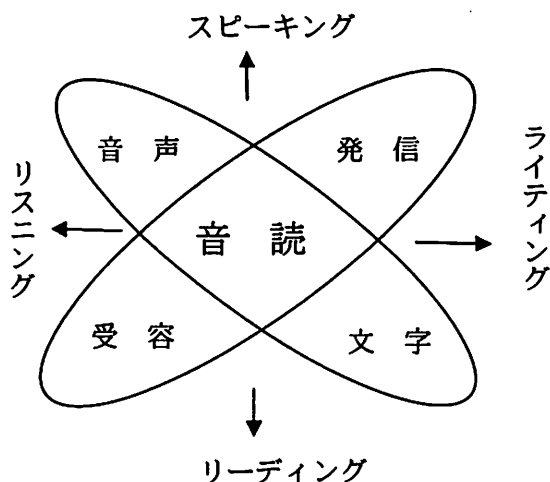


図1 学習方略としての音読

(3) 音読を中心とした授業

生徒が自信をもって英語を読めるようになるにはどうしたらよいか。土屋澄夫氏は「英語コミュニケーションの基礎を作る音読指導」という本の中で、音読は音声によるコミュニケーション活動のひとつと捉え、音読をスピーキング活動と位置づけた授業を提唱している。

新教材の導入→内容理解→音読→スピーキングの活動

ここでレシテーション（暗唱）の発表を前提にした音読の活動をあげてみる。

Step1 音読練習：テキストを黙読し、内容説明を聞いた後に行う。

Step2 Read and look-up: 音読から話す事への第一歩。

Step3 レシテーション：

Step4 オリジナルのレシテーション：

Step5 家庭での練習：家庭でレシテーションの復習ができるようにする。

(4) 音読の効用

- ① 音韻システムの獲得：英語らしい発音ができるようになるため、音読はその訓練の場を提供する。
- ② 語彙チャンクの蓄積：発話の単位は意味的にまとまりのある語彙チャンクである。
- ③ 文法規則の自動化：正しい音読をするためには句構造文法の知識が不可欠で、音読はこの知識を感覚的に瞬時に認識する能力を養うのに役立つ。
- ④ 音読からスピーキングへの発展：音読できるようになったテキストについての問答は、コン

トロールされた形のスピーキング活動である。

(5) 「自信」について

目指す生徒像の中に「自信をもって」という言葉を取り上げている。そこで心理学の面から調べてみることにした。

自信の尺度として心理学者ローゼンバーグの「自尊感情尺度」がある。

- ・少なくとも人並みには、価値のある人間である。
- ・いろいろな良い素質をもっている。
- ・物事を人並みには、うまくやれる。
- ・自分に対して肯定的である。
- ・だいたいにおいて、自分に満足している。

この尺度から明らかなように、自信とは他人と比較することによる優越感や劣等感ではない。自分について「これでいい」「まあまあ人間である」と感じる度合いである。

ローゼンバーグは自信を『自分自身で自己に対する尊重や価値を評定する程度』と定義している。

つまり、あるがままの自分を受容する態度ということである。これは本来すべての子供が身に付けているはずのものである。

そこで生徒に自信をもたせるアプローチの方法を調べてみた。

- ① (不完全な自分でも肯定的に受け入れられている人のほうが、精神的に成長したり変容できるといわれていることから) 誰もががあるがままの自分を受け入れ、自信をもつことができる信念を生徒に伝えること。
- ② どんなに小さなことでも自分なりに誇りにできることを思い起こさせること。
- ③ 勉強以外にも、その子が自分なりの成功を感じられるいろいろな機会を作ってあげることや、趣味、家庭生活など学校以外の生活を知ること。
- ④ タイミングをとらえた、心の奥から発する真

実のこもったほめ言葉をかけること。

- ⑤ 生徒の言葉に耳を傾けるほうが、生徒にとって成長の糧になることも多い。

このようなことは授業のみならず、普段生徒と接する時においても心がけておく必要のあることだといえる。

2 読解力を高めるための研究

音読が英語学習において有効的であることを述べてきたが、しかし、音読指導においても内容を理解させることが大切であることは言うまでもない。学習指導要領において「情報や相手の意向を理解する」ことは実践的コミュニケーション能力の大切な一部であり、これは読解能力にかかわることである。

英文が読めない生徒は英語を読解することも苦手とすることが多いようである。

読解が困難な理由に読解ストラテジー(読み手が効果的にテキストと関わり、読んでいるものを理解する際の頭の中で行っている作業)がうまく行われていないことがあげられる。ひとつには文化的な知識の不足、そして、読解のフォーマルスキーマ(文章の構造)に対する知識不足である。もちろん語彙や文法も省くことはできない。

そこで、英語を学習する際にこうした内容をふくめて理解させることが必要になってくる。

学習指導の工夫において、内容理解のための学習活動としていくつか試みる。

(1) ワークシートの活用

- ① Bingo Game : 単元ごとの新出単語を活用して warm-up をかねて音読練習させ、その後ゲームする。
- ② Target Sentence シート : 文法を説明した後に、左側に英文(10文程度)、右側にその日本文を載せる。英文リピート、一斉読み、各自で日本文を見ながら英文の口頭練習、その後、ペアワークをする。一方が日本語を言うと、相

手はシートを見ずに英語を言うパターンで一人1分の制限で行う。

- ③ 文法習熟シート：文法の説明や練習問題、ペアでの活動、リスニング問題等を加えて作成する。
- ④ 教科書内容理解：T or F，本文抜き出し、日本語への書き換え等の問題形式で確認できるようにする。

(2) 新聞の活用

日本の新聞や英字新聞のトップ記事や天気予報などの記事を用いて、ワークシートの設問に答える形式で、授業を終える前の読解のアクティビティーとして行う。

(3) 音声+映像の活用

文法の導入の時に、関連した内容を見せ、質問したり、その確認をしたりする。又、ダイアログを映像を見ながら、登場人物になりきって音読の練習をする。

(4) 1 sentence dictation シート

本文を暗唱した後、一週間に一度、1センテンスを選んで dictation を行う。そして、採点後はファイルに綴る。

(5) 視覚へうったえる教材の活用

文字のみだけでなく、理解させやすい方法として絵や写真を活用することも忘れてはならない。教科書の場合、ピクチャーチャートがあるが、それ以外にも文法の説明時や、練習問題においても興味や関心を引く際によい材料になる。小学校での英語の学習の際に活用される絵本なども中学校でも、よい教材になっている。

3 授業における音読指導の展開や活動の工夫改善

読むことの指導において、内容を理解させてからの音読指導を行うことが必要であることをあげてきた。では、どのように音読をさせればよいかになってくる。そこで少しでも内容に近づ

ように表現しながら音読をさせるように学習活動を工夫する。

- (1) 単語の正しい発音のやり方をしっかりと指導する。
- (2) 文を読むときの文の抑揚や強弱の指導をする。

教科書の本文に上昇調、下降調のマークや、イントネーション・マーク、強勢のマーク等を記入させる。それらを見ながら、model reading を聞かせる。1回目は、個々の文の内容を聞き取らせる。2回目はイントネーションやストレスに集中して聞かせる。次に model reading の後について、数回音読の練習をさせる。Model の音声を聞いたり、マークを見ながら音読練習をすることにより、正しい音読の仕方が定着する。そして、できれば個人練習の間に、学習速度の速い生徒には暗唱を目指させる。

- (3) 登場人物になったつもりで音読させる。これは内容を十分に理解し、正しい音読の方法を知ることによって可能である。この活動は、指導内容の最終段階と考え、全体の前でピクチャーチャートなどを活用して role play 形式で音読させたい。

(4) 「音読指導」のバリエーション

音読指導を行ううえでその方法はいろいろある。状況に応じてどのような指導にするか、決めていく必要がある。

Phrase repeating: テキストをフレーズごとに区切って教師の後について読む。長い文では、どこで意味が区切れているのかを生徒達に意識させることができる。

Sentence repeating: テキストを一文ずつ教師の後について読む。

一斉読み: 生徒達が息を合わせて一文ずつ読み進めていく。

Role play: ダイアログなどになっているテキ

ストを役割に分けて抑揚などをつけて音読する。授業の始めの段階では、テキストを見ながら教師対生徒、男子対女子などのようにして役割を分けて練習する。音読活動を重ねテキストを覚えてきたら、テキストを見ずにペアなどでジェスチャーをつけたりして発表する活動に発展させることができる。

翻訳読み:生徒達は教科書を閉じ、教師の言うテキストの日本語を、英語で言う。長い文ならばフレーズ単位で言わせることもできる。生徒には一斉で英語を言わせることも出来るし、一定の時間を置いた後に、個人に指名して言わせることも可能である。

Read and look up:生徒達にテキストを黙読する時間を与え、教師が” Look up.”と言ったら、テキストから目を離し、顔を上げて黙読した部分の英語を言わせる。翻訳読みと同様に一文が長いものや始めの段階ではフレーズごとに進めることもできる。

Overlapping:付属の CD などに合わせて、テキストを読む。自然なスピードに近い形での音読することがねらいで、始めは教科書を見ながらでもよいが、だんだん慣れてきたら教科書を閉じた形で行うとより高度な練習ができる。

Shadowing:テキストを見ずに付属の CD などの後を追うようにして音読する。

Buzz reading:テキストを個人のペースで読む。教師が回数を指定することが多い。指導した音読ポイントを意識して丁寧に読ませる効果がある。

Time limit reading:テキストを個人のペースで読む活動の一つだが、決められた時間内により多くのテキストを読む。時間を意識させることにより、スピードをもって読ませるねらいが

ある。

四方読み:Buzz reading の一種で一つのテキストを 4 回読ませる。一回読み終わるごとに 90° ずつ向きをかえ、4 回読み終わるとともにもどる。同じ姿勢で読ませると単純で飽きが出てきがちだが、向きを変えることによって、気分もかわり、周囲のペースも視野に入るため、活動にメリハリをつけることができる。

Pair reading:テキストをペアで読み、聞き合う。ペアが「聞く」という行為が加わることにより、より正確に発音したり、ポイントをおさえたりする意識を喚起させることができる。

Cloze reading:テキストの数語を空欄にして、空欄を補いながらテキストを読む。空欄にする単語は新出単語でもいいし、前置詞など特定の品詞でもよい。また、機械的に数語置きに空欄にしたりするなど、目標を自由に定めて教材を作ることができる。

Jigsaw reading:テキストを文・パラグラフなどの単位でバラバラにしたものをグループ数人が持ち、手持ちの英語を暗唱してグループで聞かせ合い、話し合ってもとのテキストを復元させる。テキストを既習教材の要約にしておいて、文と文とのつながりなどを意識させることもできる。Reading や Speaking の能力とも深く結びつける活動。

Chain reading:決められた分量 (1, 2 文, 1 段落など) のテキストを次々に席順を追って読んでいく活動。席順に従って進んでいくと生徒達は心の準備ができて活動に取り組めるが、教師が順番をランダムに決めて、より緊張感を高めさせる方法もある。

Solo reading:個人がクラス全体に向けてある程度分量のあるテキストを読む。

VII 授業実践

1 単元名 TOTAL ENGLISH 1

Lesson 6 Halloween

2 単元目標

- (1) 疑問詞 what や who を用いて話を深めることができる。
- (2) 複数主語の文構成についての知識がある。
- (3) 代名詞 they, we の用法を理解している。

3 単元について

(1) 教材観

① 題材

英会話部に所属している俊やアキはジムやミヒと一緒に外国の行事である「ハロウィーン」について、インターネットで調べています。パソコンに映し出される映像をもとに、ハロウィーンについて対話している。

② 言語材料

- ・ S + V (be 動詞) + C (形容詞)
- ・ 人称代名詞(主格) they, we
- ・ who で始まる疑問文
- ・ 代名詞 one

(2) 生徒観

小学校3年生の頃から英語の授業を受けてきて、英語への親しみをもって来た生徒たちである。アンケート結果によるとこの学級の65%の生徒が英語は難しいと答えているが、それでも英語は楽しい

と85%以上の生徒が答えている。又、授業を参観しても男子女子共に平均して発言しようとする姿勢がみられる。12月に1年生3クラスを対象に実施したアンケートでは、以下のような結果になった。

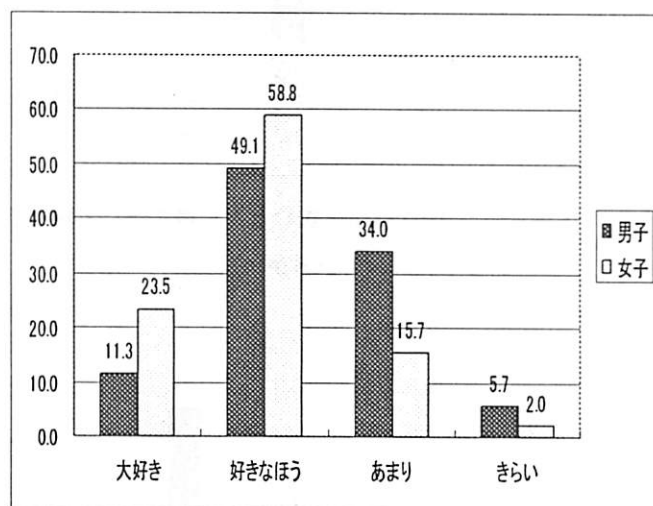


図2 あなたは英語が好きですか

*あまり好きでない、嫌いな理由

- ・ 書けないから (32%)
- ・ 読めないから (16%)
- ・ 聞き取れないから (16%)
- ・ 話せないから (16%)
- ・ その他 (何となく、ただ嫌い、)

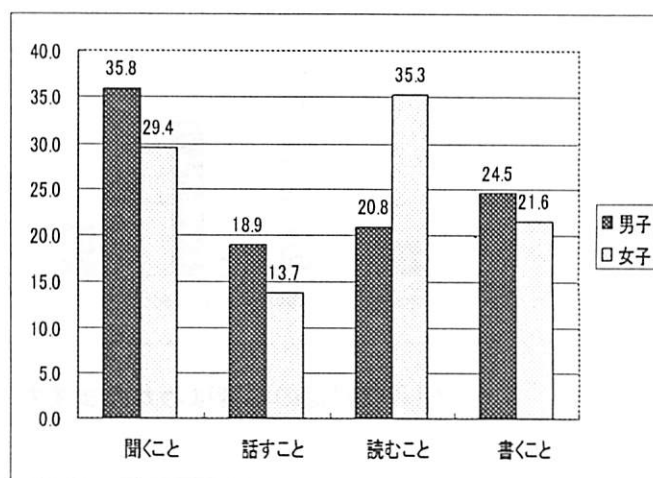


図3 英語の学習でどの言語活動が好きか

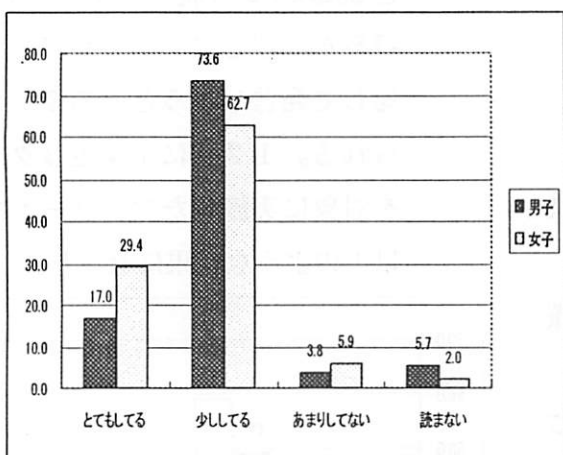


図4 英語を読むとき、声に出して読もうと努力しているか

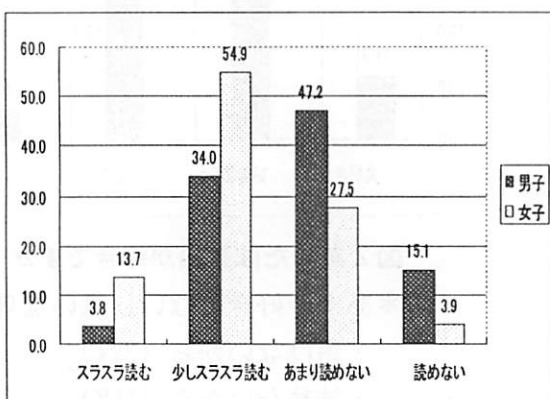


図5 どのように英語を読んでいるか

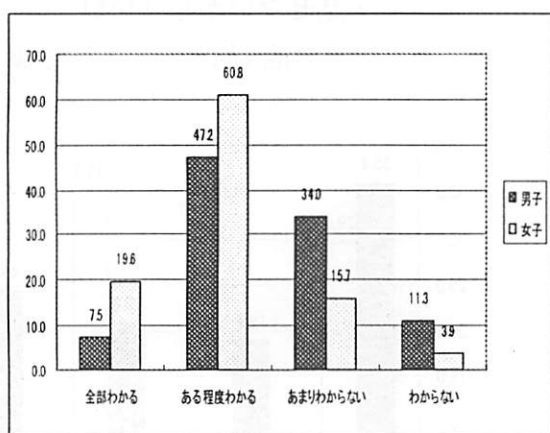


図6 教科書の内容はわかりますか

アンケートの結果を見ると、「英語が好き(好きなほう)」と80%以上の女生徒が答え、「教科書の内容がわか

る(ある程度わかる)」と答えた女生徒も80%以上いる。言語活動においても女生徒では「読むこと」が一番好きな活動と上げている。男子を見ると、60%が「英語が好き(好きなほう)」と答えているが、「教科書の内容がわかる(ある程度わかる)」が55%程で、「英語をあまり読めない(読めない)」が60%以上と多かった。男女の比較でもこのように差があるのがわかった。指導上において、こうしたことも忘れずに気を配り、指導方法にも工夫していきたい。

(3) 指導観

本単元では、欧米の代表的年中行事であるハロウィーンを扱っている。しかし、すでに生徒はその時期に国際理解としてハロウィーンの授業を受けているので、軽く触れるようにする。人称代名詞の複数形が扱われているので、それを含めて単数形の復習をする。疑問詞 what や who で始まる疑問文は生徒がイメージや集中しやすくするために、絵や写真、また、絵本も活用し、できるだけ発言する場を作る。音読指導では対話文もあるので、ペアでの練習も加えるなど、工夫する。

4 指導計画

時	学習目標	学習内容（観点別評価）
1	Lesson6-A ・ハロウィーンについての英語の説明を聞き、内容を理解することができる。 ・複数名詞や代名詞が主語の場合の be 動詞を正しく使うことができる。	[課の導入] ・intro で課の場面を理解し, task と listening に取り組む。(関心・表現・理解・言語文化) [6Aの目標文の運用] ・代名詞の置き換え, be 動詞の活用 (表現・理解)
2	Lesson6-A ・複数名詞が主語の文, 人称代名詞 they を使って, 友達を紹介することができる。 ・英語クラブについての文を聞いて, 読んで, 内容理解することができる。 ・強勢や抑揚, 語の連結に注意して正しく音読することができる。	[6Aの目標文の運用2] 複数名詞が主語の文, 人称代名詞 they を使って文を作る。(表現・理解・関心) [6Aの内容理解] ・説明文の内容を理解する。(理解) ・本文の音読 (表現)
3	Lesson6-B ・What' s~? を用いて尋ねたり, 答えたりすることができる。	[6Bの目標文の運用] ・What' s~? を用いて尋ねたり, 答えたりする。(表現・理解)
4	Lesson6-B ・本文を聞いて, 読んで, 内容を理解することができる。 ・強勢や抑揚, 語の連結に注意して正しく音読することができる。	[6Bの内容理解] ・本文の内容を理解する。(理解) ・本文の音読・ロールプレイ・応用 (表現・意欲)
5	Lesson6-C Who で始まる疑問文を用いて尋ねたり, 答えたりすることができる。	[6Cの目標文の運用] Who を用いて尋ねたり, 答えたりする。 (表現・理解)
6 検証 授業	Lesson6-C ・本文を聞いて, 読んで, 内容を理解することができる。 ・強勢や抑揚, 語の連結に注意して正しく音読することができる。	[6Cの内容理解] ・本文の内容を理解する。(理解) ・本文の音読・ロールプレイ・応用 (表現・意欲)

5 本時の活動

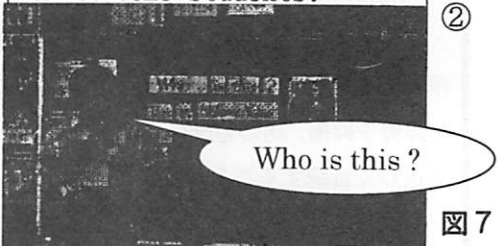
(1) 目標

- ① 本文を聞いたり、読んだりすることで、内容を理解することができる。
- ② 強勢や抑揚、語の連結に注意して正しく音読することができる。

(2) 授業仮説

既習である Who の英語表現を用いた文を聞いたり、読んだり、書いたりする活動を取り入れることで、意味や用法および内容をより理解することができるだろう。

(4) 展開

学習内容	生徒の活動	教師の活動・支援	仮説・留意点
Greeting	Good afternoon, Ms.Tome. I' m fine(so-so,etc). Thank you. And you? It' s January 15th. It' s Tuesday. It' s cloudy .	Good afternoon,class. How are you today? I' m fine,too. Thank you. What is the date today? What day is it today? How' s the weather today? Good !	英語の学習を始める雰囲気作り。
Warm-up	Look at the pictures and answer the questions. ・ He (She)is ~.	Show the students some pictures. And ask some questions using "who" . Who is this ?	Whoを用いた疑問文に適切に応答できるように心がけさせる。
Review Activity 1	Show their pictures of the worksheets. 3or4 students will show their pictures to the class. And ask other students "Who is this?" Other students will answer.	Picture Game "Who is this ?" Choose some students. 	作業仮説 ② 図7

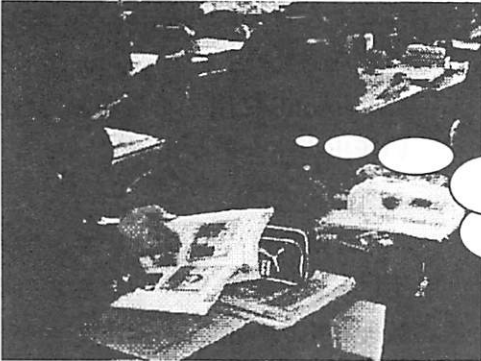
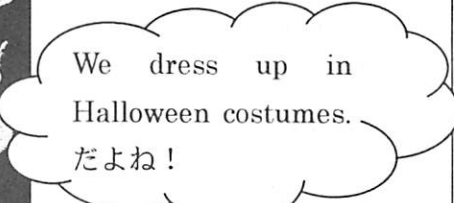
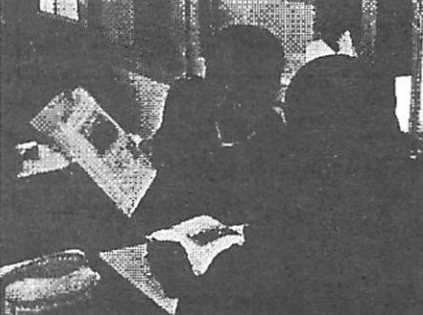
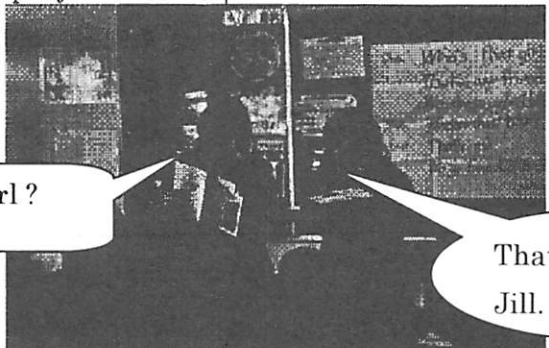
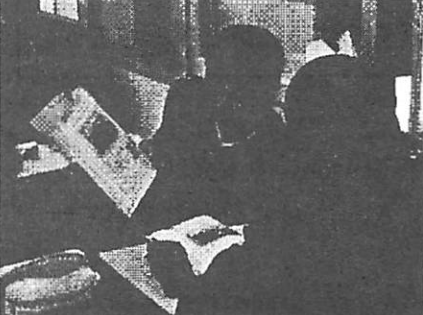
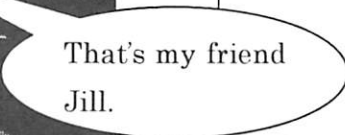
(3) 評価基準

《表現の能力》

- ① who を用いて相手に尋ねたり、適切に応答することができる。
- ② 強勢や抑揚、語と語の連結に注意して正しく音読することができる。
- ③ 本文の音読やロールプレイができる。

《理解の能力》

- ① 英文の内容について、正しく聞き取り、読み取ることができる。
- ② 本文の内容が理解できる。
- ③ who を使った文を作成できる。

Understanding	<p>Try No.1~No.3 on the sheet.</p>  <p>図8 ワークシート解答中</p>	<p>Give them new worksheet. Show 3 pictures for No.1.</p>  <p>Check the answer.</p>	<p>作業仮説 ② 本文の内容を振り返らせる</p>
Reading	<p>Listen to the CD and read the textbook.</p> <p>Reading practice</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 repeat after the CD 2 chorus reading 3 individual reading 4 pair reading 5 role play  <p>図9 pair reading中</p> 	 <p>図9 pair reading中</p> 	<p>作業仮説 ① 会話文らしく読むように声掛ける。</p>
Evaluation	<p>Try No.4 on the sheet.</p> <p>Self-evaluation</p>	<p>図10 皆の前で</p> <p>Say T or F to check the answer.</p>	
Homework	<p>Reading practice (暗誦する)</p>		
Greeting	<p>Good-bye Ms. Tome.</p>	<p>That's all for today. Good-bye class.</p>	

(5) 評価

- ① who で始まる疑問文を用いて尋ねたり、答えたりすることができたか。
- ② 強勢や抑揚、語と語の連結に注意して正しく音読をすることができたか。
- ③ 本文の内容を理解することができたか。

VII 研究の考察

1 作業仮説1の検証

教科書の各単元毎に合う音読指導を行えば、英語を読むことができるだろう

(1) 手だて


教科書の Lesson6 の本文は、セクションごとに A, B, C に分かれている。

Lesson6-A は、場面の状況を述べている説明文である。また、Lesson6-B, C は登場人物が話している会話文の内容である。そこで、説明文と会話文の違いをまず説明し、会話文では、できるだけその登場人物になりきって読むように心がけさせた。

また、本文に必ず出てくる新出単語については、音を慣れさせる意味から、できるだけ毎時間触れることができる方法を考えた。そして、warm-up の時に Lesson6 に出てくるまだ習っていない新出単語全部を用いて、ビンゴゲームを行った。

視聴覚教材の一つとして、歌を取り上げてみた。新出文型である三人称複数現在形の they を用いた文がサビに出てくる、丁度クリスマス・シーズンにふさわしい "Do they know it's Christmas time?" を選曲した。歌詞と、その和訳を載せたプリントを配布した。

また、新出文型 "What's this?" "It's" を考えさせ、印象付けさせる方法として、大型絵本 "What's this?" を用いた。動物たちが登場し、ある物に対して「これは何だろう？」といろいろと想像していく様子を描いた内容である。感情表現など豊かに朗読した CD がついていたので、それを聴かせた。



Bingo Sheet (Lesson 6)

Date _____ Day _____ Weather _____

①

Member			
Come			
They			

~~~~ 途中略 ~~~~

図11 ビンゴシート

**It's Christmas time**

**There's no need to be afraid**

**At Christmas time**

**We let in light and banish shade**

**And in our world of plenty**

クリスマスの季節

心配することは何もない

クリスマスに

僕達は光を受け入れ影を追いやる

そして私たちの満ち足りた世界に

~~~~ 途中略 ~~~~

図12 歌詞カード”Do they know it's Christmas time?”

音読指導の際、教科書本文に入る前に抑揚やイントネーション、スラッシュなどを生徒各自で教科書にマークを写させた。

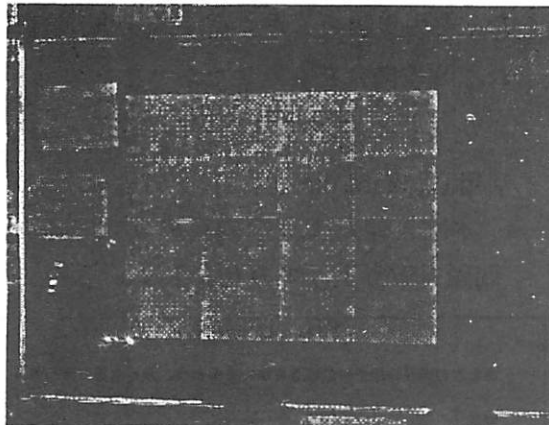


図13 板書例

その他、音読練習の方法としてまず内容理解のための取り組み（内容説明やワークシート活用等）をした後、Model reading, Chorus reading, Buzz reading, Individual reading, そして、会話文であれば、Pair reading をさせた。また、Read and look up の取り組みもした。

(2) 結果

検証後、英語の授業についてアンケートを実施した。（複数回答である。）各項目とも回答が多かった上位3番までを載せた。授業でもっとあった方が良い点は、「英語の歌」「ビ

ンゴゲーム」「写真を活用しての説明」であった。理由として、歌は楽しくて覚えやすいからあるいは楽しくて好きになる等をあげていた。わかりやすかった点は、「先生の後に繰り返しての音読み」「文法の説明」「本文にスラッシュなどを記入しての音読み」で、やはり理由としては、読みやすいから、繰り返してわかりやすいから、わからないことがわかったからと、あげている。

(3) 考察

アンケート結果は予想通り「英語の歌」や「ビンゴゲーム」をあげている生徒が多かった。どちらも楽しく参加できる理由からである。しかし一部ではあるが、歌においても難しかったという意見もあり、選曲もできるだけ学年にあうように気をつけなければいけない。

ビンゴゲームは後述作業仮説2の検証で詳しくは述べるが、今回未習の単語も取り上げて実施した。そのため、わからないと言ってくる生徒が多く出ないかと心配だったが、実施する前にいつもその用いた単語の音読を練習したせいか、特に問題なくできた。

本文にスラッシュなどを記入しての音読みはどこを強く読んだり、弱く読んだりするのか具体的にわかって、読みやすくなったという意見が多かった点から、今後も続けていく必要があると思われる。

音読指導の結果として、音読の成果はあまり変化がみられないが、生徒達の読みやすくなった、わかりやすくなったという意見があったので、今後継続的に指導を行えば、成果が出てくると思われる。

2 作業仮説2の検証

教科書の各单元ごとの英文のワークシートを活用することで、読解力を高めることができるであろう

(1) 手だて

教科書のLesson6の各单元A.B.Cごとにワークシートを作成した。新出文型や構文の説明の後、練習問題としてできるだけ簡単に皆が答えられるように配慮した選択形式の問題をまずもってきた。教科書本文の内容理解については、少しでも本文に触れさせたいという思いから、本文を読んで書かせる方法と、問題に関する英文を本文から抜き出す形式にした。

Lesson6で取り上げられている内容は、三人称複数現在形の文型と、生徒達はよく理解している疑問詞whatやwhoを用いたの文型である。

三人称は既習の単数形から復習し、複数形へと導いた。

What や who の場合には、できるだけそれを使う必要がある場面を想定して、ワークシートの内容を考えた。人物の似顔絵を描かせるワークシートも作成した。作業仮説1でも出てきたビンゴゲームのワークシート(図11参照)は、新出単語の定着を少しでもはかるため、同じシートで3回活用できるようにした。新出単語をできるだけ書かせて、触れさせる機会をもたせたかったため、生徒が楽しく参加できるビンゴゲームに活用し、Warm upとして行った。

本文と似たような内容のリスニング問題も取り上げてみた。

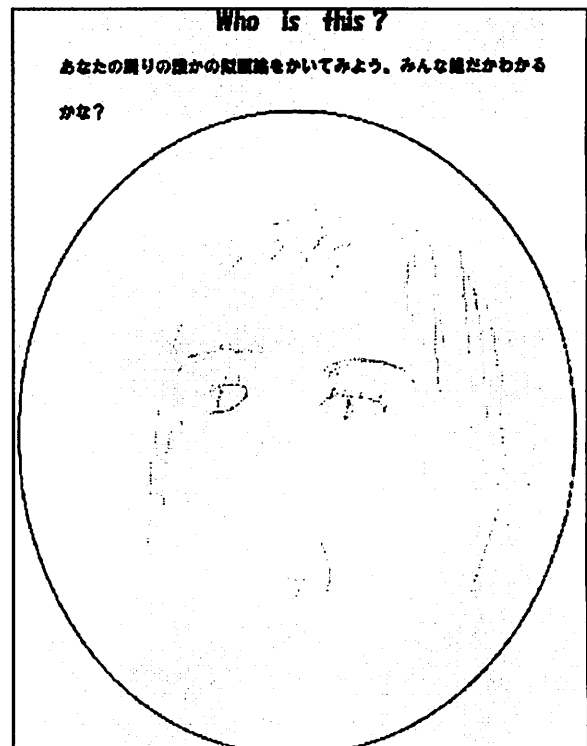


図14 ワークシート 1

2. 教科書の内容について

・あの女の子は誰ですかと必ずある英文を抜き出して書きなさい

Who's that girl.

・あれは僕の友達の子だとわかる英文を抜き出して書きなさい

That's my friend Jill.

・わたしたちがハロウィーンでやっていることがわかる英文を2文抜き出して書きなさい

We dress up in Halloween costumes.

We go to from door to door and get candies!

図15 ワークシート 2 (一部抜粋)

(2) 結果

検証前後の内容理解テストの結果より

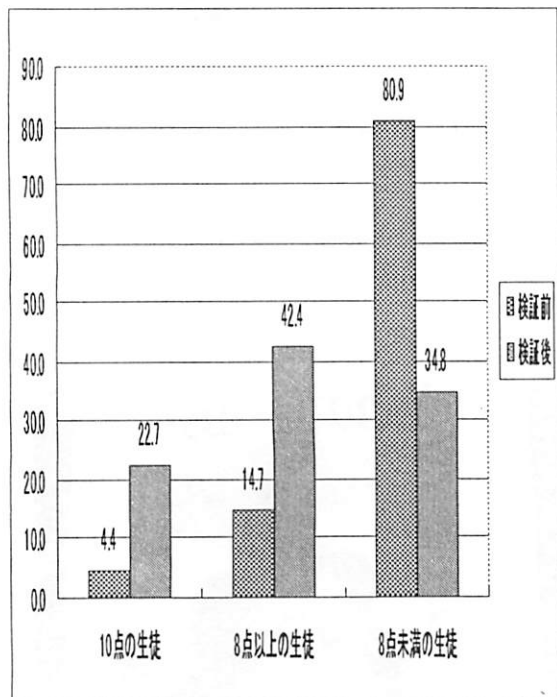


図16 内容理解テストの結果

内容理解テストを検証前後に実施した。その結果を比較してみると、検証前の結果では、10点満点中、8点以上正解した生徒は20%以下だった。しかし、検証後の結果では、65%以上の生徒が8点以上正解した。

検証前後の英語の授業におけるアンケートの結果より

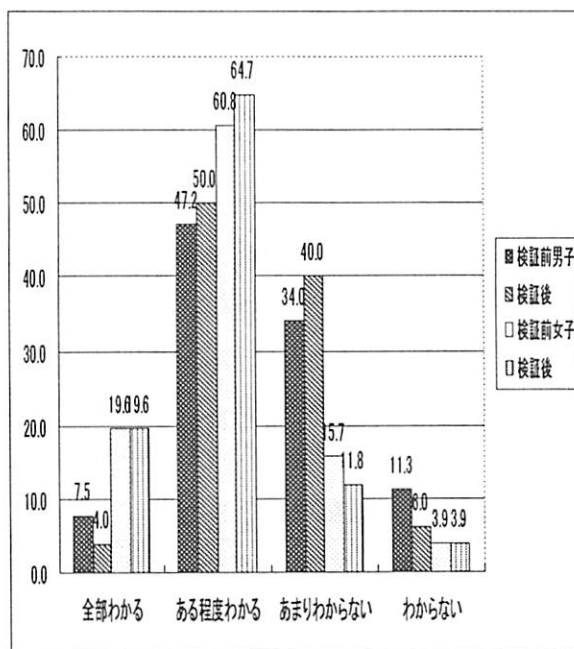


図17 教科書の内容がわかりますか

「教科書の内容がわかりますか」というアンケート結果では、検証前に比べ、検証後は、男子では、全部わかると答えた生徒は、3.5%減り、わからないと答えた生徒は、5.3%減で、他の部分が増えている。女子では、あまりわからないと答えた生徒が減り、ある程度わ

かると答えた生徒が約4%増えた。

友人と会話させた。

(3) 考察

内容理解テストの結果から、8割理解した生徒が半数以上に増えた。この結果、本文を活用したワークシートをさせることで、理解をより深めることができたと判断してよい。

すなわち、文章を読み、読解させ、さらに暗唱させる機会を与えることが、理解を深めようとする姿勢を育むといえる。

しかし、ワークシートの内容だけをこなす授業にならないように注意が必要である。特に、ワークシートの内容や量にはしっかり吟味する必要がある。

似顔絵を描いてもらったが、「顔は難しい」「絵を描くことは苦手」などの意見も出て、大いに反省した。

3 作業仮説3の検証

教科書の各单元ごとの英文や英作文を使っての言語活動を反復させることで自信をつけさせ、さらにコミュニケーション能力の基礎を培うことができるだろう

(1) 手だて

教科書の本文にでてくるキーワードやキーセンテンスを用いた、会話文などでよく見られる英文を集めたワークシートを作成し、音読を行った。Model reading, chorus reading, individual reading などの音読練習をさせた後、その中からいくつか英文を覚えさせ、

Lesson 6-B

English

1. What's your name ?
2. What's your mother's name ?
3. What's your hobby ?
4. What's the date today ?
5. What's your blood type ?
6. What's the second month of the year ?
7. What day is it today ?
8. What time is it now ?
9. What sport do you like ?
10. What subject do you like ?

日本語

1. あなたの名前は何ですか。
2. あなたのお母さんの名前は何ですか。
3. あなたの趣味は何ですか。
4. 今日の日付は何ですか。
5. あなたの血液型は何ですか。
6. 1年の2番目の月は何ですか。
7. 今日は何曜日ですか。
8. 今何時ですか。
9. あなたは何のスポーツが好きですか。
10. あなたは何の教科が好きですか。



図18 ワークシート3

作業仮説1の検証にて前述したが、新出文型の文章のある大型絵本を用いてCDをきかせた。

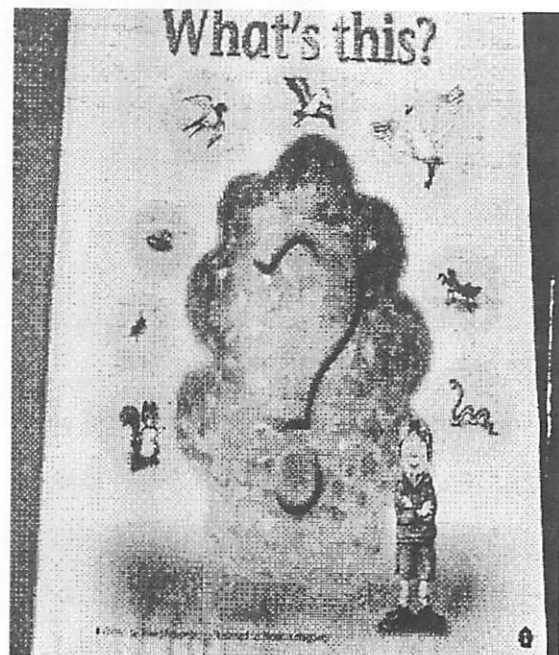


図19 絵本”What's this?”

(2) 結果

検証前後の英語の授業における意識調査の結果より

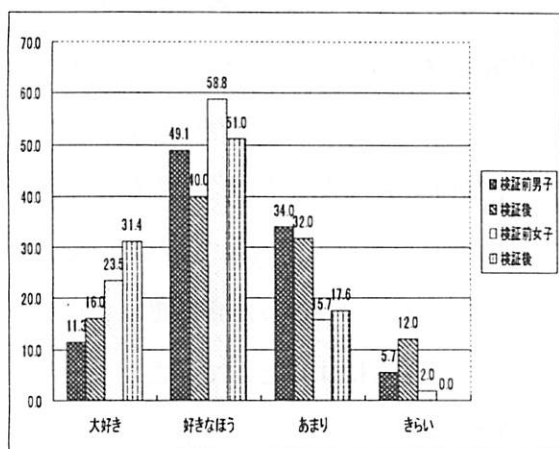


図 20 英語は好きですか

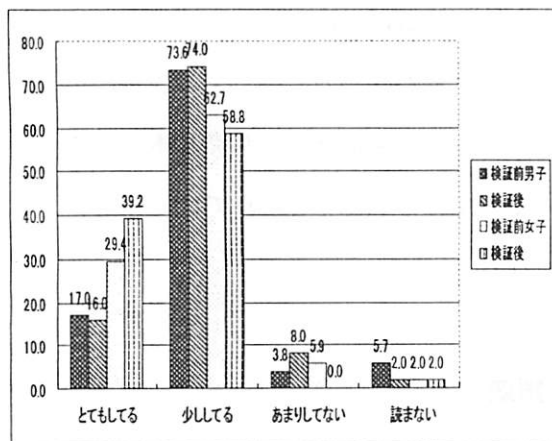


図 21 授業で英語を読むとき声に出して読もうと努力していますか

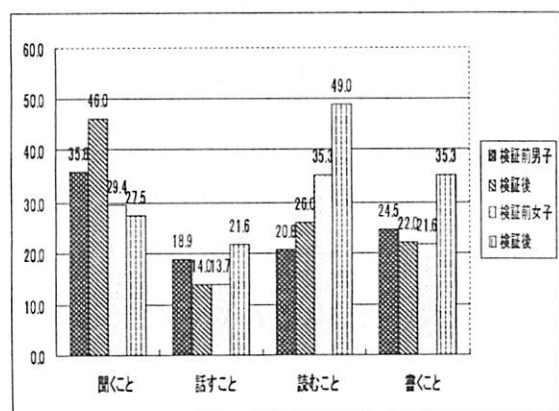


図 22 英語の学習でどの言語活動がすきか

「授業で英語を読むとき声に出して読もうと努力していますか」という質問に対し、検証前では男子はあまりしてないが 3.8%から検証後には、8.0%に増えた。これに対し、女子は検証前でともしているが 29.4%だったのが、検証後には 10%増え、39.2%になった。

(3) 考察

アンケートの結果から、男女の差はあまりないが、具体的に見ると女子が音読する際に、努力しようと前向きに取り組んでいることがわかる。実際、授業で音読などをすすんで発表しようとする姿勢は、女子が多い。作業仮説 2 の検証に出てきた、質問「教科書の内容がわかりますか」(図 17 参照)というアンケート結果と関連して考えてみると、女子は英語に自信をつけてきたので、音読へも積極的に取り組んでいると思われる。また、「英語の学習でどの言語活動がすきか」という質問に検証後の女子では読むことが 49.0%と多く、男子では聞くことが 46.0%と多かった。女子は音読に大分興味を持ったとうかがえる。

この取り組みも、期間が短くて、定着するまでに至らなかったが、継続的

に取り組むことで、前回と比べあまり伸びの見られなかった男子にも、もっと自信を持つ生徒が増えると思われる。

大型絵本の活用は文字を読む際も短い英文であり、CDを聞かせながらその場面の描写の絵を見ることで、視覚面、聴覚面から内容を理解しやすくした方法である。音読はさせなかったが、今後機会があれば、絵本の音読をさせてみるのも、音読へ興味をもたせ、英文を読むきっかけになると思われる。絵本を音読する際に、感情表現を豊かにすることで、基礎基本の言語能力も培うことが、できると思われる。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 教科書の本文を音読するときに、単元ごとに平常文や会話文の違いを説明して会話文の場合にはペアでの音読をさせることで、よりリアルさが増し、わかりやすく、読みやすくなることがわかった。また、本文に抑揚やイントネーション、スラッシュなどを記入させて音読指導に入ることは、読みやすくする手だてになることもはっきりした。

- (2) 教科書の本文の内容を読解させるときに、その本文を活用するワークシートをさせることは、内容をより深く理解させる手だてになることがわかった。今後、継続的に取り組む事により、読解力も高まっていくと思われる。
- (3) 効果的な教材を研究していく上で、視覚的、聴覚的にうったえ、想像させる指導方法を探ることができた。
- (4) 内容を理解させ、読みやすく指導し、生徒にわかる授業をすることで自信を持たせれば、読むことに興味を深めることがわかった。そして、さらに英語への関心も高まり、基礎基本の言語能力が、より高く培われていくと思われる。

2 課題

- (1) 音読指導の効果を上げるには、継続的に行い、定着させることが、大切である。その中で、あらゆるバリエーションの reading を単元ごとに活用できるように工夫が必要である。
- (2) 音読の応用あるいは発展としてレシテーションやディクテーションなども普段の授業に入れていく授業構成の工夫が必要である。
- (3) 音読指導に関わりのある音声指導

を授業の中で、どのように、どこまで指導すればよいか工夫が必要である。

- (4) 他の言語技能（聞く、話す、書く）の指導とのバランスを考え、基礎基本の言語能力を育成していく授業の研究を継続的にすることが必要である。

おわりに

検証授業前、いつも英語が読めなくて、授業への取り組みも意欲的でない S 君が検証授業の最後に行った音読テストの時、読めなくても必死に読もうとする姿の変化が見られた。検証後のアンケートで「英語を声に出して読もうと努力しているか」という項目で、多くの生徒が読むことを努力していることがわかり、この興味、関心を失わせないようにする授業の改善・工夫がこれからも必要だと改めて感じた。この半年間、いろいろな指導法や活動について専門書や講演会、検証授業などを通して、知ることが出来、それを授業で生かせなかったことが、悔やまれる。現場にもどった際には、ここでの研究を生かし、尚かつ、課題の克服のために、授業の工夫に努め、生

徒達が将来自分の人生で英語が使っていけるようにしたい。

常にいろいろな話をしながら御指導していただきました宮城むつみ所長、石川博基係長、比嘉清喜指導主事、研究所の皆様にご心からの感謝を申し上げます。また、いつも笑顔で和ませてくれるようなあいさつをしてくださった浦添市教育委員会の先生方、上原周子指導主事、英語指導コーディネーターの宮城妙子先生、浦添中学校の谷内牧子先生、お忙しい中、厳しいですが、やる気を持たせるアドバイスを時間が許す限りお話ししてくださり、本当にありがとうございました。また、いつも温かく声をかけてくださいました仲西中学校の知名道博校長、職員の皆様、生徒達に心より御礼申し上げます。

そして、快く共に励まし合い、協力し合ってきた研究員の先生方、お世話になりました。研修期間の良き思い出は今後の力強い支えとなり、自信をもって英語の教育に携わることができると思います。

【主な参考・引用文献】

- ・「中学校指導要領 外国語（新課程）」 文部科学省
- ・「新学習指導要領の指導事例集 中学校外国語（英語）科」
和田 稔編 明治図書 1990

- ・「英語の歌で英語好きにするハヤ技30 英語授業改革双書 No38
中嶋洋一 明治図書 2000
- ・「脳と音読」 川島隆太+安達忠夫 講談社現代新書 2004
- ・「英語コミュニケーションの基礎を作る音読指導」 土屋澄男
研究社 2004
- ・「単語の文化的意味」 森住衛 三省堂 2004
- ・「すばらしい英語朗読・音読の世界」 池田紅玉 教育出版 2005
- ・「英語教師のための学習ストラテジー・ハンドブック」大修館書店 2006
- ・「読解ストラテジートレーニング・プログラムの評価」 池上 摩希子
<http://www.kikokusha-center.or.jp>
- ・「認知言語学」 谷口一美 ひつじ書房 2006
 - ・「英語感覚が身につく実践的指導 コアとチャンクの活用法」
田中茂範・佐藤芳明・阿部一 大修館書店 2006
- ・「音読学を目指して__音読活動の合わせ技」
第13回研究大会音声指導研究部会 2007
- ・月刊「英語教育」 大修館書店 2003~2007